

ヘンロ小屋プロジェクト

長谷川 修

四国の歩き遍路は疲れが溜まる昼下がり、木造りの潇洒な建物の「ヘンロ小屋」に出会うとほっとする。立ち寄る所の少ない遍路道沿いに新たにできた休憩所は、吹き抜ける風も爽やかで心地良い。

小屋の中にはお接待の飲み物や菓子が用意され、地元の方のお世話で清掃も行き届いている。歩き遍路はしばしの休息をとり、小屋で出会った遍路同士で話したり、備え付けのノートに書かれた感想文を読んだりする。時には地元の人からいろいろな話が聴けるのも楽しい。ここで心身の疲れを癒した遍路は、元気を取り戻し次の霊場へと向かう。

斬新な考えで遍路道に休憩所を造る運動を主導しているのは、徳島に生まれ、大学教授を経て、現在は大阪で設計事務所を構える、歌洋一さんだ。歌さんは、お遍路の風習が色濃く残る土地で育つが、長じて国内外の巡礼地を訪ね、お接待の精神に裏打ちされた四国遍路の独自性に目覚めた。また自ら遍路に出て、気軽に休める所や雨

露をしのげる場所が減っていることに心を痛めた。

彼が五〇歳の時（二〇〇一年）、住民のボランティアによって仮眠もできる休憩所を八九ヶ所（八八＋一、＋一は高野山か）造る「ヘンロ小屋プロジェクト」構想を発表した。反響は大きく、多くの賛同者や協力者が現れ、現時点では既に五七棟が完成し、プロジェクトは今も進行中である。

歌さんの小屋造りの考えは明快だ。地域の特性を生かすことを第一に考え、デザインに地域の伝承や物語を組み入れ、建築材料に地元の特産品を使うなど、「ヘンロ小屋」はひとつひとつが個性的だ。また、小屋の建設に際しては、土地や資材の提供・調達、工事の施工まで、すべての工程を地元の人の参加で行い、完工後の維持管理も地元のボランティアだ。このように単なるモノ造りよりも、地域の幅広い人の協力による建設の過程やその後の運営を重視する。

世界に類を見ない四国の文化遺産（お接待と遍路の文化）の継承と広がりを目指すヘンロ小屋運動に期待する。